

欄間彫

能村 研三

桜花来寧

奈良を訪れることを来寧というそうだが、桜の美しい時に奈良を訪ねることが出来た。

四月の始め、支部の指導句会のため奈良に行ってきた。昨年は私の入院手術の騒ぎがあったので叶わなかったが、何年かぶりに奈良へうかがうことが出来た。大浦郁子支部長のお家は庭から耳成山を一望できる眺めの良いところである。いつもご自宅に支部員が集まって句会を行っているようで、今までに私も何度かお訪ねしている。

大浦さんの明朗快活で気さくな関西弁のお話が懐かしかった。中坪一子さん、前川京子さんお二人の同人に加えて、寺田和子さん、村尾和子さん、堀口登志美さんが参加された。

翌日は、旅に同行した妻と二人の娘と共に吉野の桜をみることにした。その前に、東吉野にある登四郎の句碑を訪れた。奈良市内から宇陀の八咫鳥神社を経由して東吉野に入った。東吉野へは句碑建立後にも何度か来ているが、花時に来るのは句

碑建立の時以来である。

霊地より天降るしだれざくらかな

登四郎

平成九年春に奈良県東吉野村の宝蔵寺境内に建立された先師登四郎の句碑である。この近くには神武天皇が鳥見山に霊時を設けたという伝説の史蹟があり、登四郎はそこでこの句を詠んだ。句碑建立は昨年亡くなった茨木和生先生のご尽力によるもので、あらためて先生の篤いご厚誼に感謝したい。

宝蔵寺は普段は無住寺で寂しい寺であるが、この日は奈良県でも最大級と言われるしだれ桜が満開で、寺では、村の人によるイベントが開催されていて、私たちも桜の樹の下のお茶席で一服を頂くことが出来た。

この後、東吉野から車で吉野へ向かったが、中千本あたりから大変な車の渋滞にはまってしまった。車を降りてゆっくりお花見するのは叶わなかったが、車から花で霞む奥千本あたりの景色を堪能することが出来た。

能村 研三

恍惚の音シユレッダーの春愁
だんだんに沼に日あたる卒業歌
いつせいに雲も駆けだし卒業子
酒屋や黙つてゐればいいものを
屋根替を文化遺産の如く見し
涅槃西風波が波打つ欄間彫